

平成28年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	とうきょうげいじゆつたいがくおんがくがくふぞくおんがくこうとうがっこう				②所在都道府県	東京都
28～32	①学校名	東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校 在籍者総数119名（平成27年度現在）	
音楽科	40名	40名	40名		120名		
⑥研究開発構想名	音楽の力で世界を魅了する先導的グローバルアーティスト育成プロジェクト						
⑦研究開発の概要	国際舞台で活躍する音楽家人材育成プログラムの構築・実践を目的として、東京藝術大学との連携や実践型教育強化を基盤に、音楽家にとって重要なコンピテンシー（独創性・多様性・主体性を基軸とした能力）を強化するとともに、音楽活動を通して培われる創造力・発信力・キャリアデザイン力を備えたグローバルリーダーの育成を図る。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>我が国が「文化芸術立国」のための国際プレゼンスの向上を目指す上で、日本固有の魅力を活かした芸術創造や国際発信を担う先導的なグローバルリーダー、国境を超えて活躍できる芸術家育成が喫緊の課題であり、特に音楽分野では、グローバルスタンダードである「早期教育」を踏まえた高等学校段階の人材育成強化が必要であることから、本校の卓越した教育研究基盤を活かしつつ、高大連携により、洋楽・邦楽を含む我が国の音楽ポテンシャルを活かした世界トップレベルの音楽家育成の実現を目指す。併せて、複雑な過程と手続から成る音楽活動の実践を通じて培われる、創造力・発信力・キャリアデザイン力を応用したグローバルリーダーの育成を図る。</p> <p>研究開発実施に際しては、附属高校が学内外で実践している公开发信型行事（公開実技試験・演奏修学旅行・定期演奏会・アカンサスコンサート）の活用・洗練と、東京藝大がスーパーグローバル大学として実施している取り組みとの有機的な連動や、東京藝大の組織体制・リソース等の有効活用による高大コラボレーションによるシナジー効果を実現し、持続可能型のグローバルリーダー人材育成プログラムの開発・実践を目指す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆目標1：グローバルアーティストとしての3つのコア・コンピテンシーの向上</p> <p>①「独創性」を基軸とした「音楽表現力」及び「合奏力」</p> <p>②「多様性」を基軸とした「交信力」及び「共感力」</p> <p>③「主体性」を基軸とした「キャリアデザイン力」及び「挑戦力」</p> <p>◆目標2：音楽分野のグローバルスタンダードを踏まえた早期専門教育プログラムの質的向上</p> <p>◆目標3：グローバル人材育成機能の抜本的強化や成果普及・ブランド力向上に向けた持続可能型の高大連携教育・マネジメントシステムの構築</p> </div>					
		<p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>我が国唯一の国立音楽高等学校であり、スーパーグローバル大学「東京藝大」の附属学校である「東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校（藝高）」は、設立以来、国内外で活躍する優れた音楽家を継続的に育成・輩出し、国の中核機関・ナショナルセンターとして、国内最高水準の音楽教育を実践してきたが、世界最高水準を目指すためには、教育内容・指導体制等の更なる強化を図る必要があるため、以下の仮説を設定・実施する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆仮説1：海外トップレベルの指導者・音楽家による指導・交流機会の拡充</p> <p>◆仮説2：音楽家として求められる語学力強化、海外等学外ステージでのコラボレーション機会の拡充</p> <p>◆仮説3：国際舞台への飛躍等、自身の将来をイメージした主体的な音楽活動の拡充</p> <p>◆仮説4：音楽分野におけるリーディングモデルとなる高大連携マネジメントシステムの構築</p> </div>					
		<p>(3) 成果の普及</p> <p>東京藝大と一体的な「ブランディング戦略」として、多言語による国際発信を行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆スーパーグローバル大学HPと一体的にリンクさせた「SGHホームページ（SG×2）」作成・公表</p> <p>◆東京藝大「ミュージックアライアンス」を活用したデジタルアライアンスによる活動状況の国際発信</p> <p>◆「SGH研究開発成果報告書」の作成・配布（音楽高校・音楽大学、企業・音楽団体・官公庁・自治体等）</p> <p>◆本校が理事長校の「全国音楽高等学校協議会」や「全国芸術高等学校長会」を通じた情報発信</p> </div>					

⑧-2 課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>★研究課題テーマ：4つの障壁（『距離の壁』『言葉の壁』『環境の壁』『限界の壁』）の克服による世界最高水準の音楽創造の実現</p> <p>平成27年5月閣議決定「文化芸術の振興に関する基本的な方針—文化芸術資源で未来をつくる—」（第4次基本方針）において、グローバル化に対応した芸術家育成の必要性や芸術文化を介した国際交流推進等が掲げられ、外交政策における「ソフトパワー」としての日本の芸術文化潜在力活用が求められていることから、日本固有の魅力を活かした新たな芸術文化力の創造や国際発信を担う先導的なグローバルリーダー育成が喫緊の課題となっている。</p> <p>我が国唯一の国立音楽高等学校である藝高は、音楽分野における早期専門教育のパイオニアとして国内最高水準の音楽専門教育を実践してきたが、上記課題解決の牽引役を果たすべく、更なるグローバル人材育成機能の強化、世界最高水準の教育機関への飛躍を目指す。</p> <p>具体的には、東京藝大との連携基盤を活かし、世界を魅了する独創的な音楽表現力や卓越した合奏力をはじめ、インタラクティブなコミュニケーション能力や共感力、将来を見据えたキャリアデザイン力や挑戦力を兼ね備えた先導的なグローバルアーティスト育成機能強化・人材育成プログラム開発を目指すこととし、音楽分野の特性を踏まえ、4つの障壁（『距離の壁』、『言葉の壁』、『環境の壁』及び『限界の壁』）を克服すべくアプローチする。</p> <p>実施方法・検証評価</p> <p>★研究開発単位1：『Global Practice（グローバル・プラクティス）』</p> <p>世界に通用する実践力を強化するため、海外一流音楽家を講師とした世界水準のハイクオリティなレッスンを導入するとともに、指導方法をアーカイブ化して教材を開発</p> <p>⇒「合奏（3単位×3年間）」及び「重奏（1単位×3年間）」において、新たに海外一流音楽大学・楽団等の指導者・演奏家（邦楽は国内一線級人材）を講師とした指導を導入</p> <p>★研究開発単位2：『Global Communication（グローバル・コミュニケーション）』</p> <p>国際舞台における対話・共演力を強化するため、インタラクティブな英会話教育や第二外国語教育、海外等学外舞台への学生派遣プログラム（実践型アクティブラーニング）を導入</p> <p>⇒「英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ（1～3年生計7単位）」及び「コミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲ（1～3年生計9単位）」を能力別3クラスに再編・少人数化し、最上級クラスは大学授業と共同化する等、英会話力強化</p> <p>⇒音楽分野で重要な「フランス語」及び「ドイツ語」の選択履修（大学授業と共同化）</p> <p>⇒「総合学習（2単位）」において海外等学外派遣プログラム「グローバルコラボレーション」を導入</p> <p>★研究開発単位3：『Global Career（グローバル・キャリア）』</p> <p>世界を指向したキャリア形成に資するため、国内外の第一線で活躍している指導者・音楽家等各界著名人・有識者を特別講師としたダイバシティなキャリア教育を導入</p> <p>⇒「総合学習（2単位）」及び「ホームルーム（3単位）」において学外有識者による「キャリア講座」を導入</p> <p>検証評価に関しては、附属高校が実践する公開発信型行事もその総合的实践と成果検証の場として有効活用するとともに、全ての研究開発単位において、生徒・父兄や指導教員へのアンケート・講評や研究員レポート、関係機関等アンケート等を踏まえ、研究開発チームが定量的・定性的な観点から第一次検証評価を行い、さらにコンクール参加・入賞や国内外での演奏実践活動等との相関関係を調査・検証することで第二次検証評価を行う。加えて、卒業後の活動状況も追跡調査・経年比較等を行うことで、継続的に研究開発成果を検証する。</p> <p>(2) 必要となる教育課程の特例等：該当なし</p>
	⑧-3 上記以外
⑨その他 特記事項	<p>国内最難関音楽高等学校として、既に入学時点で国内外音楽コンクール等入賞実績を有する者が多数存在 西洋音楽に加え、我が国固有のアイデンティティである「邦楽」に関する稀少な人材育成拠点としても機能 SGHの既採択112機関中、芸術・音楽分野の採択実績はないことから、リーディングプロジェクトとしても有効</p>